

ALTの鬼の里Diary ~Devin編~

私は料理をするのは得意ではありません。アメリカにいるとき作った料理は、パスタやサラダ、カレー、パンケーキくらいで料理はあまりしませんでした。



ところが、昨年7月以降、さまざまな料理を学びました。でもアメリカと日本では台所にある機材が違うので、慣れるまで時間がかかりました。皆さんは、毎日のように炊飯器を使っていると思いますが、炊飯器はアメリカでは、あまり人気はありません。その代わりに、アメリカには、どの家庭にも大きいオーブンがあります。私は、アメリカにいたときよくケーキを作っていました。ケーキの型枠もオーブンも、日本のものと比べるともっと大きかったので、大きいケーキを作ることができていました。アメリカでは、大きいオーブンを使って家族みんなで食べる料理をたくさん作ります。

最近、家にいる時間が増えてきたことから料理に挑戦しています。チキンを焼いたり、炊飯器を使ってチョコレートケーキも作りました。炊飯器の使い方も徐々に慣れていき、料理も少しずつ成長できそうです。

きほくのまち人探訪

優しさ溢れる絵と言葉を1枚の紙に表現する「ことば絵」。松浦明郎さんは、ことば絵の制作や町内外でカルチャースクールを開催しています。



松浦 明郎 さん

今年でことば絵の活動は、7年目を迎えました。始めたきっかけは、以前働いていた和食屋のインテリアを考えていたとき、絵手紙の創始者である小池邦夫さんの本を手にとったことでした。準備するものは少なく、気軽に始めることができたときと当時を振り返ります。

「絵と言葉の組み合わせで人を喜ばせることができることが最大の魅力」と話す松浦さん。3月に開催された鬼北桃祭では、松浦さんの描いたかわいい、おひなさまの絵が配られ、参加者を喜ばせていました。そんな松浦さんの作品は、外国人にも販売されています。また、作品に添える言葉も一文字ずつ丁寧に考え、手を抜くことはありません。「同じ言葉であっても人によって受け止め方が変わることがある。でもそれが日本語の難しいところであり、面白いところ」と作品作りの難しさを話します。

松浦さんは、「まずは活動10年目を迎えたい。そして世界中、各国の家に1点自分の作品を飾ってもらうことが夢である」と大きな目標に目を輝かせていました。

地域おこし協力隊のゆうゆう自適日記



地域おこし協力隊3年目

はやかわ ゆうこ
早川 優子



皆さん、こんにちは。おうち時間にも慣れてきましたが、早くも梅雨入りしてしまい窓を開けて換気することも難しくなっていました。うまく空気の入れ替えなどをして、まだまだ新型コロナウイルスの感染予防に努めたいですね。

5月は成川溪谷休養センターは休業中でした。でも、休業だからこそ新しいことにチャレンジするための準備や、日頃手が届かない場所の整理や、清掃のお手伝いをすることができました。作業中は、新緑美しい季節の成川溪谷の景色に毎日癒されました。掃除のため、屋根に登ったり、今まで経験

したことない貴重な体験ができたと思います。これから成川溪谷のこけの綺麗な季節になりますので、たくさんの方に足を運んでいただきたいと思います。

